昭和４０年４月５日第三種郵便物認可
（旧「公衆衛生」）

**２０１５年５月１日発行**
第581号（通算）
発行：奇数月１日
会員購読料：１月１０円(年間６０円)
一般購読は別途送料

環境づくり・健康づくりのコミュニティ情報紙

# 環境と健康

発行者
一般財団法人 ～みんなの生命（いのち）をまもりたい～
広島県環境保健協会
近光　章
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号　730−8631
電話　082−293−1511番
振替口座01380−2−27511
URL　http://www.kanhokyo.or.jp/

## 地域活動支援センター 平成27年度事業概要

# 人材養成研修と組織力診断
## 中堅推進委員育成事業スタート

地域活動支援センターは、脱温暖化センターひろしまは、環保協の公益事業部門として、公衆衛生推進協議会（以下、公衛協）を主体としたコミュニティにおける健康づくり、環境づくりの支援を行っています。『円滑な公衆衛生活動の実現に向けたバランスのよい事務局運営体制の構築』『全県共通事業と個別支援を通じた公衆衛生活動の拡大・充実』を第一期中期経営計画（平成25～27年度）の重点方針に掲げ、第一期の最終年度となる平成27年度は以下の三つの視点で推進します。

**①公衆衛生活動の支援**

人材養成研修（基礎研修と専門研修）および健康づくりメニューの充実を図るほか、「ヒト」「モノ」「カネ」の視点で公衛協の現状を把握する「組織力診断」の実施を通じて、公衛協活動の活性化に取り組みます。

**②地球温暖化対策の活動支援**

地球温暖化対策地域協議会と連携して、地域学習会と省エネ実践活動の強化を図るとともに、地球温暖化防止活動推進員の養成・育成に取り組みます。

**③地域活動支援センターの機能強化**

関係団体の活動実績の収集と発信に努め、情報の共有・活用を促進し、部門間および外部団体との連携強化を図ります。

例年、県下の公衛協関係者が一堂に会し、情報交換などを行う場として開催している「第54回環境保健夏季大学」を7月9日～10日（一泊二日）に、「第56回広島県公衆衛生大会」を12月10日にサンスターホール（坂町）で開催予定です。**（各種の研修会・会議の日程は6面参照）**

人材育成事業では、これまで実施してきた「市町公衛協事務局サポーター養成事業」を刷新し、公衛協での活躍が期待できる人材の育成を行う「公衛協中堅推進委員育成事業」を展開します。

また、今年度で7年目となり、公衛協の代名詞的な事業になっている「環境啓発ポスター・標語コンクール」「環境と健康のコミュニティ活動助成事業」は、申請書の提出締め切りが5月29日となっています。特にコミュニティ活動助成事業は、助成額上限50万円の「広域型」の助成対象が市町レベルから支部・地区・学区レベルへ拡大をしているので、公衛協活動の財源として活用してください。

専門研修「広報・ツールづくりコース」で発信力を強化（上）、新規推進員養成研修（下）

## 我がまちの公衛協 ①

公衛協のPRや情報交流のきっかけとなるよう、市町公衛協会長に『わがまち』で力を入れている取り組みやその成果についてインタビューし、県内26公衛協の魅力をお伝えします。

所　属：庄原市公衛協
お名前：宮本　英暉
公衛協歴：15年目
会長歴：11年目
世帯数：15,146世帯※
推進委員数：340人※
※平成26年度調べ

### 『率先・垂範』で理解・協力
### エチケット袋でごみ減量

**Q1　力を入れている活動**

不法投棄対策と「3R」の効果的な推進に力を入れています。

不法投棄対策では、地域ごとに不法投棄パトロールを行ったり、『庄原よいとこ祭り』や『庄原夏祭り花火大会』にブース出展し、不法投棄防止の意識啓発をしています。また、これらのイベントでは、エコスポットでのごみの分別指導やエチケット袋を配布して行う「祭りのごみ持ち帰り運動」を展開しています。

**Q2　活動成果**

花火大会を例に出すと、当初は、2トントラック5台分のごみが排出されていましたが、現在では1台分にまで減っています。市外からもたくさんの方に来場いただくなかで、繰り返し呼びかけした成果が出ていると感じています。

**Q3　苦労した点と解決策**

「捨てる人」と「きれいにする人」のいたちごっこが課題です。ポイ捨てや3Rについて、意識改革から行動に移してもらうまで苦労しました。

とにかく、さまざまな広報媒体で呼びかけ、意識づけを行いました。

なかでも、他団体との協働事業は、呼びかけが届く年齢層やチャンネルが広がり、効果があったと実感しています。

**Q4　会長のモットー**

『率先・垂範』です。自身が先ずやってみせることで、役員も一緒に行動できます。公衛協が率先・垂範することで住民活動として伝わり、理解・協力が得られます。

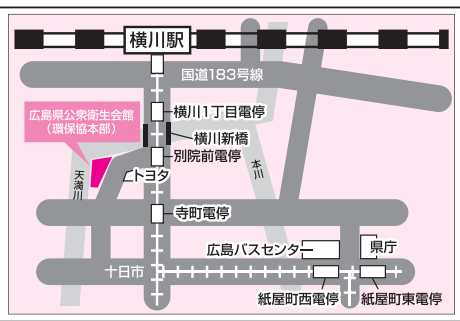
これからも、率先・垂範で地域住民に理解・協力を得られるよう、取り組みを展開してまいります。

（地域活動支援センター）

## 琴線歌（きんせんか）

### 人間ドックとがん検診のすすめ

人間にとって一番望ましいのは健康長寿だ。寿命一杯元気で楽しくである。早期発見・早期治療という言葉があるが、更に望ましいのは病気にならないこと。予防は早期発見より10倍も100倍も良い▼特に両親の罹った病気は要注意である。遺伝子を濃厚に受け継いでいる。私も両親が軽度糖尿病であった。私は45才で糖尿病になった。当時、身長168センチで体重72キログラム、軽度肥満であった。脂肪肝もあった。5年で体重を10キログラム落とし、以後標準体重を維持しているが、一度罹った糖尿病は治らない。日本人は糖尿病になりやすい。予備群の段階で発見し、生活改善をすれば罹らない。その為には、40才くらいから人間ドックを受けることである。これで普通の生活習慣病は予防できる▼問題は癌である。癌は日本人2人に1人はこれで亡くなる。死亡原因の断然一位で、45才から5年ごとに倍増している。癌細胞を破壊する免疫力が、老化によって年々衰えるためだ。肉親が癌に罹った方と一度癌に罹った方（多重癌）は、要注意である。癌にかかりやすい素質を受け継いでいる。癌は非常に多い病気なので、定期的に癌検診を受けるべきだ。症状がないこともままあるから、検診を定期的に受け、何か症状があれば、たとえ数カ月前は異常なしといわれていても、徹底的に検査して頂く。検診では異常なしとされても、早期発見が難しい部位の発癌により、検診から数カ月で手遅れというケースも聞かれるが、偶然癌が発見され助かった方も大勢おられる。癌検診による早期発見が大事である▼定期的な健診の受診と健康的な生活習慣の実践で、長生きして人生を楽しんで頂きたいものである。

（元厚生省検疫所長・健康クリニック参事　鈴木忠明）

一般財団法人 ～みんなの生命（いのち）をまもりたい～
広島県環境保健協会
〒730-8631 広島市中区広瀬北町９番１号（広島県公衆衛生会館）
TEL:082(293)1511 ［大代表］ FAX:082(293)1520
かんほきょう 検索
基本理念 ～みんなの生命（いのち）をまもりたい～
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。